

豊島区議会副都心開発調査特別委員会で 質疑に立ちました。

(平成30年7月17日)



大塚駅北口駅前整備の推進にあたって、
地元連絡会との協議状況や、地域からの
整備への要望、さらに、整備費用などに
ついて、区に質問しました。



▲7月27日都電荒川線で
「白杖 SOS シグナル」の
理解推進活動中。

大塚駅北口駅前整備について

竹下ひろみ 大塚駅南口の整備が昨年終わっ
た。トランパル大塚は、日々のイベントや
人々で賑わっている。いよいよ始まる北口
改良工事は待ちに待った整備であり、大変
喜んでいる。地元の北口連絡会での協議は
これまでどのように進んできたのか。

豊島区答弁 北口連絡会は、平成20年から
地域周辺の5町会、2商店街の代表で構成
され、現在まで44回の会議を開催した。

竹下ひろみ 北口連絡会からの地域要望には
どのようなものがあるか。

豊島区答弁 駅前公衆トイレは暗くて使いづ
らい、通りもうす暗く、JR・都電間の通路
壁を改修するなど、イメージアップを図っ
てもらいたい等の要望が出ている。

竹下ひろみ 3つのモニュメント・大リング・
光のファンタジーの工事費用が8.8億円と
なっている。高額過ぎるのではないかと。

豊島区答弁 3つのモニュメント・大リング
に5.9億円を見積っている。まちのにぎわ
いやイメージアップに必ず貢献できる。大
塚の「0」をコンセプトに光のファンタジー
で大塚のおもてなしのシンボルとしたい。



まとめ ▲大塚駅北口駅前イメージパース (昼・夜間)

大塚駅南北自由通路が開通し10年が
経ち、昨年には南口広場が完成しました。

北口の整備を進めることで、さらに大塚の魅
力を区内外に発信できると確信しています。

本整備により、北口の宮仲公園通りや折戸通
りへもにぎわいを誘導できると期待されます。

オリ・パラ開催にあわせ、スピード感を持っ
て整備に取り組んでいただきたいと思います。

竹下ひろみ 主な経歴

昭和35年生まれ/帝京大学文学部 卒業/平成15年 豊島区議会議員当選 (以後4期連続)
第67代、70代 豊島区議会議長、豊島副都心開発調査特別委員会委員長等を歴任。現在：自民党豊島総支部幹事長。家族：夫、三男一女。

豊島区議会議員 竹下ひろみ 事務所

〒170-0013 豊島区東池袋 3-10-1
TEL.03-3985-0781 FAX.03-3980-3871
E-mail : takeshita-hiromi@toshima-jimin.jp

身近な区政の
ご相談、お待ち
しています

2018年夏号【発行】竹下ひろみ事務所 〒170-0013 豊島区東池袋 3-10-1

生涯豊島 全力投球

豊島区議会議員

平成30年も
区政改革
推進中!

竹下ひろみ

自民党
豊島区議団

一人ひとりの幸せを大切にする街づくりを進めます!

★竹下ひろみ 5つの誓い



まちづくり 安全、快適で美しいまちづくりの推進
木造住宅密集地域の解消、公共建造物の遅滞なきメンテナンス、景観向上施策の実施

防災・環境 まちの協働で安全・安心の地域の達成
首都直下型地震への対応、テロ対策、振り込め詐欺防止装置への助成、防犯カメラ設置促進

地域経済 オリ・パラ後も発展し続ける豊島区経済を牽引
公民連携による都市開発、地域ブランドの確立、池袋駅東西における民需刺激策の実現

福祉・衛生 切れ目のない子育て支援と健康寿命の増進
待機児童ゼロの維持、産前産後のケアに注力、認知症対策の推進、助け合うための地域づくり

教育 高い教育水準の堅持に向け家庭教育の支援
小中学校の整備促進、放課後子供対策の充実、保育園・幼稚園における幼児教育を後押し



自民党を代表して、豊島区議会第二 回定例会で一般質問に立ちました

豊島未来へ～一人ひとりの幸せを大切にするまち



一般質問に立つ竹下ひろみ区議

竹下ひろみ区議は、豊島区議会第二回定例会で、自民党を代表して一般質問に立ち、池袋駅周辺のまちづくり、聴覚のバリアフリーなど区政の緊急課題について質問しました。

竹下ひろみ区議の質問の様様を、抜粋・要約して特集します。



【Hareza (ハレザ) 池袋の完成イメージ】
2020年春、旧庁舎跡地に「8つの劇場」を含む国際的な“文化にぎわい拠点”としてオープン。



豊島区議会本会議場

●池袋駅周辺地域におけるまちづくりについて

豊島区立総合体育場の早急な整備・改修を

竹下ひろみ 造幣局地区に隣接する総合体育場の管理棟は、築50年が経過し老朽化が進んでいる。建替えを含めた検討状況は。

豊島区答弁 区体育協会の意見を聴きながら、建替えの検討を進めている。来年早々に具体的なスケジュールを示したい。

竹下ひろみ グランドでは野球、テニスなどのボールがネットを越えてしまうことがあり、重大な事故につながりかねない。ネットの改修について区の所見を伺う。

豊島区答弁 指定管理者、利用団体の意見を参考に改修の検討を進めている。年内の改修完了に努める。

ハレザ池袋オープンへ向け、一層のバリアフリー対策の推進を

竹下ひろみ 「ハレザ池袋」のオープンで、年間1000万人を集客すると予想されている。そこで、課題となる、障害者や外国人のための案内や受付の体制について伺う。

豊島区答弁 案内サイン表示は、①直感的に分かりやすいピクトグラム、②英語をあわせた記載、③見えやすい場所に大きく表示、の3点を基本に検討している。

竹下ひろみ 劇場内での字幕、難聴者用のスピーカー、視覚障害者用音声ガイド等の対応について伺う。

豊島区答弁 劇場内では受信機を介し音声を受信するシステムを導入する。また、区民センターでは字幕や手話を映す計画をしている。

●聴覚のバリアフリーの推進について

竹下ひろみ 一般財団法人日本補聴器工業界の2015年のデータによると、日本の難聴者率は全人口の約12%・1500万人と推計されている。約10人に1人が難聴者といわれるなか、区役所各窓口の「聞こえ」への対応と、会話支援機器の導入について伺う。

豊島区答弁 ゆっくり、はっきりとした発語に留意し、理解度を確認しながら、視覚的情報や筆談を併用し対応している。会話支援機器については、保健福祉部各窓口へ設置を拡大する。

竹下ひろみ 会話支援機器を給付の対象に加えるなど、日常生活用具の見直しを。

豊島区答弁 機器の最新情報を収集し、利用

者ニーズや他自治体の動向等を踏まえ拡充内容を検討する。

●超高齢社会に対応できる介護人材の確保と育成を

竹下ひろみ 豊島区では、ほとんどの高齢者・障害者施設の運営が民間事業者に委ねられており、区の積極的な取り組みが必要。介護人材の確保と育成への認識は。

豊島区答弁 処遇改善、職場の魅力向上に加え、介護人材のすそ野を広げる必要がある。

竹下ひろみ 新たな介護施策への展望は。
豊島区答弁 入門的な研修受講費用、介護福祉士資格試験費用助成を開始したい。

